

# 《第1回データビジネス創造コンテスト》表彰式の模様

## 《審査委員特別賞》……………慶應義塾大学大学院経営管理研究科



慶應義塾大学大学院の渡辺美智子教授より「審査委員特別賞」を授与されたのは慶應義塾大学大学院経営管理研究科の村上さん。



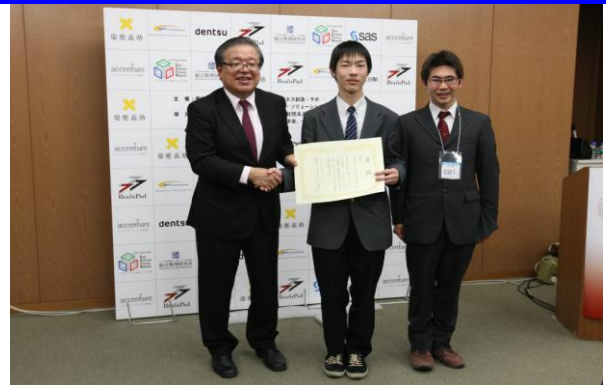
“Buzz Finder”を活用してソーシャルメディアを解析し《地域ブランド構築と地域活性化のためのマネジメント・サービス》を実現しようと取組んだ内容でした。

## 《入賞》……………岡山県立邑久高等学校



続いて村井審査委員長より、最終審査に残り、プレゼンテーションを行った皆さんに《入賞》が授与されました。

岡山県立邑久高等学校の鶴島君、東山君、太田君の、共に“花粉症”に悩まされている3人がプレゼンテーションを行いました。



《ソーシャルデータから読み取る花粉症の脅威と天候との関連性について》をテーマに花粉症の原因は何か、どんな花粉に影響されるか、鼻に症状がでたり、眼に症状がでる症状との関係などを“Buzz Finder”の特性を活かした極めて分析しました。

## 《入賞》……………千葉県立柏の葉高等学校



村井審査委員長から《あなたのつぶやきからわかる生活習慣病のリスク》の発表で《入賞》を授与される千葉県立柏の葉高等学校の船串さん、澤村さん、中島さん。



病気のリスクを減らそうと生活習慣病の関係を“Buzz Finder”で分析し、食事の“つぶやき”を健康管理に役立てるアイデアを提案しました。

# 《第1回データビジネス創造コンテスト》表彰式の模様

## 《入賞》……………芝浦工業大学柏高等学校



同じく《入賞》の芝浦工業大学柏高等学校の谷本君は、1年間かけて「Big Ri Data」というホームページを起ち上げた経験を持っているそうです。

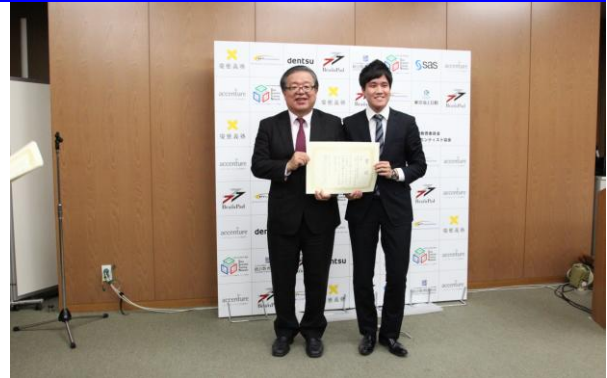


《桜の開花予報》にたどり着いたと、九州から北上する桜前線を追いかけて、「ピザと花見」をキーワードに“Buzz Finder”を駆使してリアルタイムで分析しました。

## 《入賞》……………東京都市大学



《ネット上のクチコミから就活生の本音を読み取る》をテーマに発表した東京都市大学の荻原君、西脇君、山下君で共に就活中の3人も《入賞》しました。



国内労働人口の減少が心配される中、離職率が高い実態から“Buzz Finder”を用いて就活生の実態を調べ、何をすべきか、就職活動への環境づくりを提案しました。

## 《入賞》……………立教大学経営学部



《ハピネス度を高める施策の研究》をテーマに発表した立教大学経営学部の山下さん、佐々木さん、大竹さん、岡本さん、島袋君、猿田君、江見君、浅倉さんも《入賞》しました。



“Buzz Finder”を使ってスポーツイベントおよび天候とツイート数の関連を分析し、「幸せあふれる社会の構築に役立てよう」というユニークなアイデアでした。



## 《第1回データビジネス創造コンテスト》表彰式の模様

### 《入賞》……早稲田大学基幹理工学部表現工学科河合研究室



《消費税増税による購買行動の変化》をテーマに発表した早稲田大学基幹理工学部表現工学科河合研究室の板橋君、徐君、三家さんの3人も《入賞》しました。



～コンビニ利用者の選択やいかに～のサブテーマで“Buzz Finder”の特性であるリアルタイムでデータを分析する機能を活用し、購買行動がどのように変化したのかを分析しました。

### 次回開催は何時……??!!



100席ほどの会場はほぼ満席状態で、《BigData Conference 2014 Spring》の一環として開催された表彰式とは言え、人が集まるのかと心配する事務局をよそに、別の会場で開催されているConferenceの参加者も続々と部屋に集まりスターと時間の午後1時半には人熱で冷房が必要な状態となりました。

村井審査委員長の開会の挨拶に始まり、分刻みで進む表彰式はほぼ計画どおり、午後2時過ぎには全ての表彰が終わり、古谷審査委員の閉会の挨拶を持って終了しましたが、実は今回55件の応募があり、早速次回開催を希望する声が寄せられました。果たして《第2回データビジネス創造コンテスト》の開催はあるのか……？

## 《表彰式》の後の出来事ですが……次回は意外と早いかも……？



表彰式終了後には村井審査委員長とNTTコムオンラインマーケティング・ソリューションズ代表取締役社長の塚本良江氏による“Buzz Session?” 短期間の内に学生の皆さんが“BuzzFinder”の特性を良く理解し、活用したことと同時に、応募者の皆さんの感性豊かなアイデアに驚かれたことなどが紹介されました。

閉会の挨拶の後、村井審査委員長が今回の《第1回データビジネス創造コンテスト》は“Buzz Finder”というソフトウェアを開発されたNTTコム・オンラインマーケティング・ソリューションズ様の強力なご支援を受け、開催に漕ぎ着けることができたことに感謝を述べました。

今回のコンテストは“Buzz Finder”を活用してインターネット上のTwitterで発信されるリアルタイムの“つぶやき”をいくつかのキーワードを用いて分析し、その中からビジネスに活用できるアイデアを考えて頂くという趣旨で企画したのだが、スピードをインターネット時代とは言え、短期間の告知、募集にも関わらず全国の高校や大学、大学院から55件もの応募があったことに、主催者として大変な驚きであったと述べました。

そして会場を提供頂いた日経ビッグデータさんの支援に感謝するとともに、本日会場にお集まり頂いた多数の皆さんに感謝する旨、挨拶しました。

また構想では毎回、ビッグデータを扱うデータビジネスについて、その可能性を探るあるいは新たな可能性を考える機会とするため、今回“Buzz Finder”を提供頂いたNTTコムオンラインマーケティング・ソリューションズのように、他の企業からもご支援を頂いて、切り口の異なる発想を誘発するようなコンテストにしたいと説明し挨拶を終えました。



そこで早速、米国で先般1日限定でグーグルから販売された例のウェアラブルを手にしたアクセントの工藤卓哉氏が登壇、次回は9月頃開催を目指して、企画を具体化したいとのアイデアを打ち出しました。

ということは1回だけで終わりじゃない？ということで今回、最終選考に漏れた皆さんにも、早速、次のチャンスが生まれそうですね。期待して、予告や募集に注目しましょう。



今回も慶應義塾大学の学生の皆さんはじめ、NTTコム・オンラインマーケティング・ソリューションズの皆さんなどたくさんの方々が裏方として頑張りました。